

研究・調査報告書

報告書番号	担当
190	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
The health benefits of moderate drinking revisited: alcohol use and self-reported health status. 中等度飲酒は健康上に有益である、再び：飲酒と自己報告による健康状態	
執筆者	
French MT, Zavala SK.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Health Promot. 2007 Jul-Aug;21(6):484-91.	
キーワード	
健康状態、飲酒、健康調査	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>飲酒と自己報告による健康状態の関連について調査する。特に中等度飲酒者が他のタイプの飲酒者や禁酒した人、全く飲まない人と比較して、自己報告でも平均的な健康状態が良好かどうかを検討しようと考えた。</p> <p>方法：</p> <p>2002年の国民健康インタビュー調査 (n=31,044) の成人サンプルの部分を用いた、アメリカ大陸全体の断面調査である。調査対象は組織化されていない一般住民を母集団とした米国を代表する対象である。自己報告で平均的な健康状態が良好である人と他のすべての健康状態の人を分けて測定した。飲酒パターンについて、いくつかの測定値を設けた (例；常用者とその飲酒量、問題飲酒、禁酒した者、全く飲まない者)。慢性的な健康状態と個人特性、生活習慣の因子はすべての多変量解析に調整変数として含んだ。</p> <p>結果：</p> <p>男女とも現在中等量飲酒していると答えた者が、他の現在飲酒者、禁酒した者、全く飲まない者に比べて、平均的健康状態が良好であると報告するもののオッズ比が高かった (男性オッズ比 (OR) =1.27、女性 OR=2.03、P<0.01)。過去一年の間に飲酒した人をすべてひとつのグループとしてまとめると、それぞれのオッズ比は 1.12 と 1.34 に低下した。</p> <p>結論：</p> <p>中等量飲酒は慢性的健康状態、人口統計学的特性、健康に関する生活習慣を調整した後でも、自己報告した健康状態が良好であることについて高いオッズ比を示した。</p>	